

EV 用急速充電器「SERA-50」が 初出荷から 5 年で累計出荷台数 2,000 台を突破

1 はじめに

東光高岳が開発・製造を行う EV 用急速充電器「SERA-50」が、2025 年 10 月 7 日をもって、累計出荷台数 2,000 台を突破した。

「SERA-50」は、2020 年 10 月の初出荷以来、EV インフラの整備・拡充に貢献する製品として、高速道路の SA・PA や自動車ディーラー、コンビニエンスストア、公共施設、商業施設、企業のフリート^{注1)}向けなど、幅広い分野で導入実績を積み重ねてきた。

「SERA-50」の基本仕様を表 1、外観を図 1 に示す。「SERA-50」は、シンプルで使いやすいスタンダードな当社主力モデルである。以下に「SERA-50」の特長を挙げる。

- ・最も選ばれている 50 kW の標準出力容量、コンパクトなデザイン
- ・カラーディスプレイに操作ガイダンスを表示、初めての利用でも迷わず簡単
- ・インバーターをユニット化し、万が一の故障時にも残りのユニットだけで充電が可能

表 1 基本仕様

最大出力	50 kW
入力電圧	三相 3 線式 AC 200 V (50/60 Hz)
外形寸法	W 665 H 1,734 D 407 (mm)
質量	約 270 kg
認証・課金機能	OCPP



図 1 「SERA-50」外観

2 2,000 台突破の背景と今後の期待

近年の EV 用急速充電器市場では、車両バッテリーの大容量化や国による補助金要件の変化に伴い、さらなる高出力化が進む傾向にある。しかし、大容量の急速充電器は、受変電設備の増強工事による初期費用の発生や、運用費用である電力基本料金の上昇を招く場合があり、これらが設置の障壁となるケースも少なくない。

「SERA-50」は、入力容量を 50 kW 以下に抑えることで低圧契約の範囲内での運用を可能にしている。これにより、大規模な電気設備改修を伴わずに導入でき、初期費用および運用費用を大幅に抑制できるという利点がある。

こうした経済性に加え、限られたスペースにも設置可能なコンパクトなデザインや、視認性を高めたカラーディスプレイの採用によるユーザビリティの向上などが高く評価され、累計出荷台数 2,000 台という節目を迎えるに至った。

各自動車メーカーが展開する EV のラインアップには軽自動車も多い。軽自動車に大容量バッテリーが搭載されることは少ないため、「SERA-50」の充電能力がマッチすると考えられる。今後も改良を重ねながら、出荷台数を伸ばす見込みである。

3 今後の『SERA』シリーズの展開

東光高岳では、「SERA-50」を引き続き市場へ展開していきたいと考えている一方で、国からの指針でも示されているように、急速充電器の大容量化や高電圧化も求められている。こうしたニーズに応えるべく、CHAdeMO 規格対応器としては世界初（自社調べ）となる一口最大出力 350 kW（総出力 400 kW）の次世代超急速充電器を、EV 充電サービス事業者である株式会社 e-Mobility Power と共同で開発し、2025 年 5 月に製品発表会を行った。2026 年夏～秋ごろに東名高速道路海老名サービスエリア上下線ともに設置を予定している。

当社は、導入面と運用面に優れた「SERA-50」を筆頭に、図 2 のように設置環境や利用ニーズに合わせた最適なラインアップを展開^{注2)}し、EV の導入拡大に貢献していく。

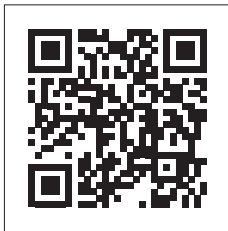


図 2 SERA シリーズ ラインアップ

■ 語句説明

注 1) フリート：法人が事業で使用する車両群

注 2) ラインアップを展開：詳細は以下をご覧ください。

SERA | EV 急速充電器国内 No.1 の累計販売台数を誇る
東光高岳

GX ソリューション事業本部